

ふるさとの魅力を 再発見!

イワミノチカラ 代表 伊藤 康丈 (いとう やすたけ)

ふるさとへUターン

僕は江津の高校を卒業後、都会にあこがれて大学に進学、大手ゲーム企業に就職しました。キラキラした世界のなかで、大きなビジネスを経験するなど、刺激的な都会の生活を楽しんでいたと思います。しかし、転機が訪れました。15年勤めた会社を辞めたことが大きなきっかけでしたが、東日本大震災が気付かせてくれた人々の絆の重要性、そして自身のキャリアを生かしてふるさとを元気にできる事業との出会い、それらがタイミングよく重なったおかげで、22年ぶりに故郷江津へUターンすることになりました。

地域をもっと楽しく

Uターンして取り組みたかった事、それは人□減少の抑制です。若い人たちが、働きたいのに働く選択肢が少ないという現実を、何とか改善したいと思いました。人□が増えたらそれだけ仕事の数も増えるはずです。雇用を生む力は僕にはありませんが、地域の魅力を感じ、そこで暮らし続けたいと思える環境づくりであれば、僕のキャリアを活かせるのではないかと思ったのです。実際にかえってみて、地域に入ってみると、なかなか面白い事、魅力的な人が活躍されていました。都会で暮らしていた僕にとっては、それらがすべて新鮮で楽しく、魅力的でした。そこではじめたのが、期間限定で地域体験交流イベントを開催する事業「いわみん〜いわみの国をみんなで遊ぶ〜」でした。

いわみん~いわみの国をみんなで遊ぶ~

2013年5月に第1回目がスタートしました。浜田市、江津市、川本町で約3週間の間に29の体験プログラムを開催しましたが、地元の人たちを中心とした、400名以上の方が参加し楽しんでくれました。広島や東京に行かなくても、地元には楽しいことがある、面白い人たちが暮らしている、お客様の反応やプログラム提供者さんの声からも、足元に魅力がたくさんあることを実感させてくれました。お陰様で4年目、6回目の「いわみん」を



今年5月20日~6月19日の1か月間、エリアもプログラムも拡大し、開催することができました。

さらなる地域の魅力アップをめざして

「いわみん」という取り組みを通じて、少しでも社会問題の解決に役に立ちたいと活動を続けていますが、現在 J R 三江線とその沿線の魅力化を実現しようという取り組みにも関わっています。

有志と「三江線沿線魅力化プロジェクト」を立ち上げ、 廃線の危機を迎えているJR三江線を盛り上げようと活動を始めました。車社会がゆえに縁遠くなりがちですが、 鉄道の存在は、生活にも、観光にも、そして地域の文化 にも貢献してくる重要な地域資源です。

「いわみん」や「三江線沿線魅力化プロジェクト」等の地域活動を通じて、そこに住んでいる人たちに取り組みが伝わり、そしてその良さを身近に実感できる機会をたくさん作っていきたいと思います。

